

## 03年冬期日本語・日本事情プログラム 10カ国・地域から36人の研修生参加



大林国際交流センター長の発声でジュースに乾杯！

にわたって行われる。

国際交流センターの「03年冬期日本語・日本事情プログラム」が始まり、1月14日、開講式と歓迎会が、生田キャンパスで開催された。

今回のプログラムには10カ国・地域から36人の研修生が参加。ギリシャ人でベネチア・カフオスカリ大学(イタリア)から来日のエヴァ・バナギョトブル・アリティノウさんは「大学ではアジアの宗教について学んでいますが、日本語のレベルアップを目指してプログラムに参加しました。研修の合い間に京都、奈良、高野山を訪ねたいです」と目を輝かせた。研修は3月11日まで8週間

[2月8日/ニュース専修9面]

## 県人会 北から南から 栃木県人会 他県人会との交流活発 県内出身者が半数以上



昨年の夏合宿で

栃木県人会には1年次から3年次まで30人が在籍し、うち県内出身者は18人と半数以上。「県内出身者が多く、打ち解けやすい雰囲気だったので入りました。入学したばかりのころは、履修の仕方など大学のことを先輩からいろいろと教えてもらって助かりました」と神田崇雄くん(商2・栃木県佐野高)は入会動機を話す。

休み時間には多くの会員がボックスで談笑していて、齋藤稔弥会長(経営2・栃木県作新学院高等部)は「上下関係を気にせず楽しめるところが“栃木県人会らしさ”です」と言う。

「他の県会に比べると少人数ですが、行事への参加人数が多いというのは特徴だと思います。みんな積極的なので盛り上がります」(同会長)。メイン活動である夏合宿にも昨年は25人が参加した。9月に那須高原を訪れ、バーベキューや花火などを楽しんだり、那須ハイランドパークへ行ったりして交流を深めた。同会長は「夜に宿泊地近くのグラウンドで肝試しを開催するなど、準備は大変でしたが楽しんでもらえて良かった」と話した。

他県会との関係も大切に、連県本部主催行事やブロック行事にも積極的に参加。また、1月27日から4日間、長野県・戸狩での冬合宿は、初めて福島県会と合同で行った。約35人が参加し、スキーやスノーボードなどを通じて親睦を深めた。齋藤会長は「初めての試みということもあって企画から大変でしたが、交流を図れたと思います。来年はまた違う県会と実施してみたい」と話し、「みんなが楽しめる場所」という雰囲気を大切に活動していきたい」と今後の活動について語った。

[2月8日/ニュース専修9面]

## インターネットを賢く使おう

### ■メールマガジン(メルマガ)〈連載6/6〉専修大学WEBマスター 八箴 克彦

この項も最終回になりました。今回はメールマガジンについて解説しましょう。

メルマガは、簡単にいえば「電子メールを使った電子雑誌」といったところでしょうか。え、わからない？それではインターネットの検索サイトで「メールマガジン」を調べてください。「まぐまぐ」「BIGLOB」「Melma」「Macky」…たくさんリストが出てきましたね。どれでも結構ですから、クリックしてみましょう。メルマガの発行会社のトップページが表示されました。いろいろなマガジンが発行され、カテゴリー別に分類されているのが分かりますね。自分の興味ある分類の中から、さらに詳しい情報の内容を調べることが出来ます。発行人や記事内容、発行頻度等のほか、関連の紹介サイトや今までのバックナンバーなど詳しい紹介があります。ほとんどが無料で購読出来るのもうれしいですね。購読も中止もメール一本で簡単に出来ますよ。

メルマガの購読を登録すると、毎日その到着が待ち遠しくなりますよ！ところであなたの趣味は何ですか？趣味に関するタイトルを探したかったら、同サイトの「検索」にキーワードを入力して探す方法もありますネ。たとえばあなたが釣り好きなら「ブラックバス」とでも入力してみてください。最新の釣り情報や仲間の集まりなどが掲載されたマガジンの照会情報がすぐに手に入ります。

このメルマガを自分で発行することも出来ます。費用もかからず、手軽に発行できますが、周到的な準備と継続する強い意思がないと途中でネタ切れになって中断、せっかく購読を申し込んでくれた読者に、失望感を与えかねないので注意しよう。毎日の生活にアクセントを添える意味でも、気に入ったメールマガジンをみつけて利用したいものです。趣味のほかに語学の勉強や各種情報の収集などを目的に利用している人も多いようです。え、もう利用しているって？恐れ入りました。

〔2月8日/ニュース専修9面〕